

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 原油高や金利上昇等により消費者マインド低下

(06年2月シカゴ大消費者センチメント)

06年2月17日(金)

～水準、変化率ともに消費の拡大ペースへの影響は限定的～

(No. UI - 204)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		消費者信頼感 (Consumer Confidence)						ミシガン大学消費マインド			
	期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状		
			充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅				
05/02	104.4	96.1	116.8	21.1	22.4	17.9	7.8	7.2	4.1	94.1	84.4	109.2
05/03	103.0	93.7	117.0	21.8	23.8	19.3	8.2	5.7	3.8	92.6	82.8	108.0
05/04	97.5	86.7	113.8	20.4	22.9	17.7	9.9	5.8	4.1	87.7	77.0	104.4
05/05	103.1	93.4	117.8	22.9	24.1	19.0	9.5	7.8	3.5	86.9	75.3	104.9
05/06	106.2	96.4	120.8	22.5	22.5	19.5	9.0	6.6	3.6	96.0	85.0	113.2
05/07	103.6	93.2	119.3	22.9	23.8	17.9	9.5	7.6	3.8	96.5	85.5	113.5
05/08	105.5	93.3	123.8	23.6	23.1	18.7	10.0	6.2	3.5	89.1	76.9	108.2
05/09	87.5	72.3	110.4	20.7	25.0	15.4	19.6	5.8	3.4	76.9	63.3	98.1
05/10	85.2	70.1	107.8	20.7	25.3	14.1	18.5	6.4	2.8	74.2	63.2	91.2
05/11	98.3	88.4	113.2	21.1	23.6	19.0	11.5	5.0	3.0	81.6	69.6	100.2
05/12	103.8	92.6	120.7	23.3	22.5	18.4	9.1	6.1	2.8	91.5	80.2	109.1
06/01	106.3	91.5	128.4	26.9	20.3	17.7	10.5	6.6	2.8	91.2	78.9	110.3
06/02										87.4	74.4	107.7

(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

市場予想を下回る

3.8 ポイント低下

06年2月のミシガン大学消費者センチメント指数(速報値)は、87.4と前月から3.8ポイント低下し市場予想の91.0を下回った。ただし、水準、変化率ともに消費の拡大トレンドに大きな影響を与えるものではない。実際、マインド調査期間と同時期(2月第1、2週)の消費動向を示す統計をみると、週間小売売上高は2月第1、2週平均で1月対比+0.7%と1月の前月比+0.2%から加速しており、足下の個人消費は堅調さを維持している。

マインドの内訳は、現状指数が107.7と前月比2.6ポイント、期待指数が74.4と前月から4.5ポイントの低下となった。現状・期待が変化した要因をみると、現状判断は雇用・所得の拡大、ヒーティングオイル、天然ガス価格の落ち着きが下支え要因となった一方で、金利上昇等による資金調達環境の悪化が押し下げ要因となり前月から小幅低下したと考えられる。他方、期待指数は調査時点での原油価格の高止まり、利上げ継続観測等によって景気の先行きに対する楽観的な見方が後退したとみられる。

他の調査でもマインドは低下

2月の他の消費者マインド調査をみると、ABC/ワットポスト消費者信頼感指数は1月の平均の9.6から2月第1、2週平均に12.0と悪化した。TIPP景気楽観指数(2月6日~10日調査)が50.5と1月と変わらずとなるなど、各種マインド調査は2月に消費者マインドの改善に歯止めがかかっていることが示唆されている。金利の上昇が続く一方、景気が堅調さを維持する中、消費者マインドに影響を与えた原油価格は足下で低下傾向を辿り、ガソリン価格も小幅低下に転じていることから、マインドの持続的な悪化は避けられよう。

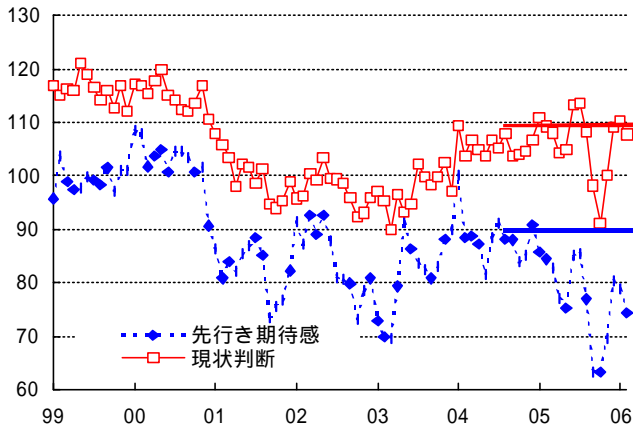
**今後マインドは安定
圏での推移が予想さ
れる**

エネルギー関連では、原油価格はイランの核燃料技術研究再開、ナイジェリアの政情不安による供給懸念が後退する一方、需要面では米国の在庫増加を受けWTIは1バレル=60ドルを下回っている。しかし、今後も1バレル=60ドルを下回る水準が続けばOPECが減産するとみられ、このまま下落が続く可能性は小さい。さらに、OPECに増産余地がない中で、イランからの輸出が中止されれば、原油価格が上昇を続ける可能性が高い。このため、イランは国連がイランの収入の大半を占める原油輸出を禁止するような経済制裁をできないと判断していることから、強行に核燃料技術の研究を続けると予想される。この場合、イスラエル、米国による核施設への空爆懸念が高まり原油価格は最高値を更新する展開となる可能性がある。

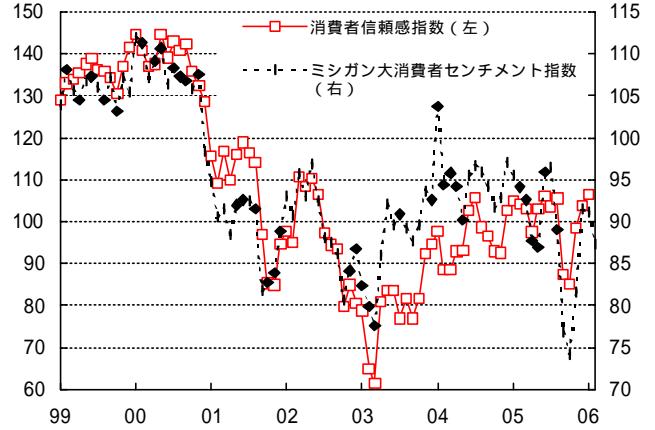
一方、ガソリン価格は、需要期が終わったこと、石油の精製能力が大幅に低下しているが順調に精製施設の再開が続いていること、ガソリンに対する環境規制や輸入船籍規制を緩和したこと、加えてIEA加盟各国が原油・石油製品備蓄を放出したことからガソリンの供給が世界的に増加しており、ガソリン価格の上昇は緩やかなものにとどまろう。また、ヒーティングオイル、天然ガスは、ロシアでの寒波による輸出の減少や米国の需要期が続くものの、米北東部の気温が今年は平年よりも高い状態になっているため急騰は避けられる可能性が高い。

加えて、雇用・所得の拡大が予想されることから、消費者マインドは90前後の消費に悪影響を与えない安定圏での推移が予想される。

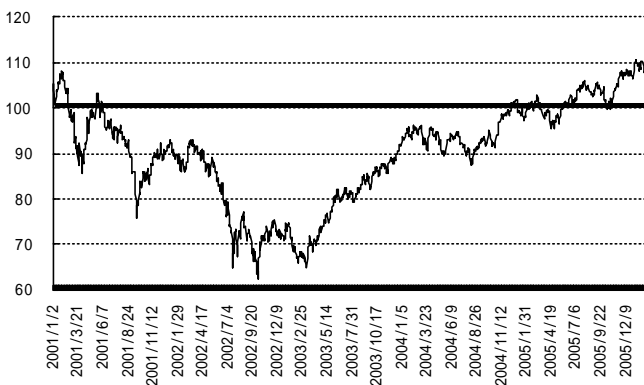
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



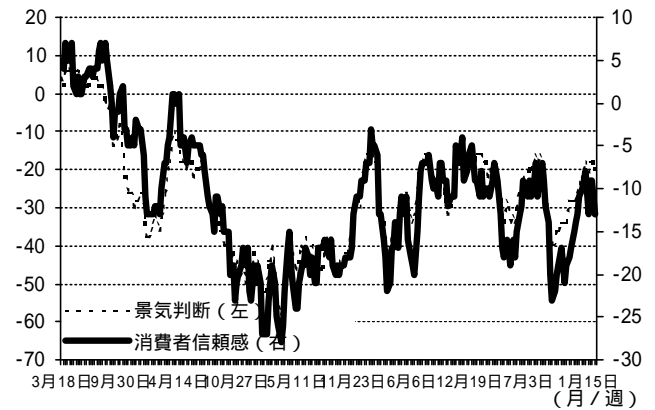
消費者マインドの動向



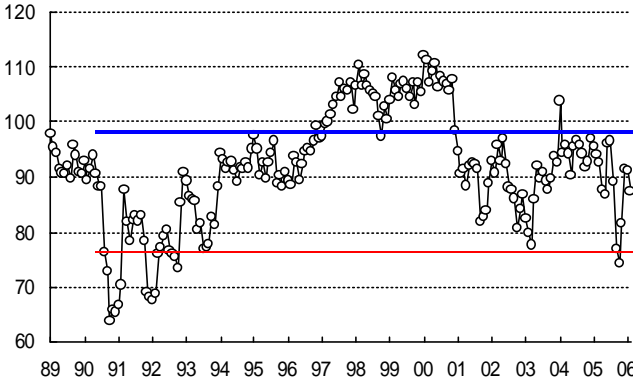
(01年1月2日=100) ヲルンヤ-5000の推移(2001年1月2日～2006年2月16日)



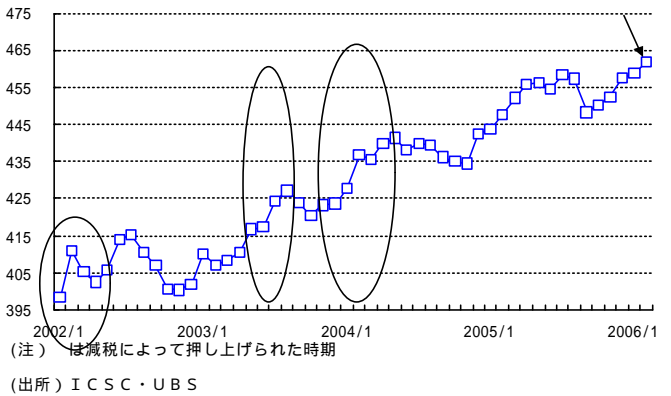
A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



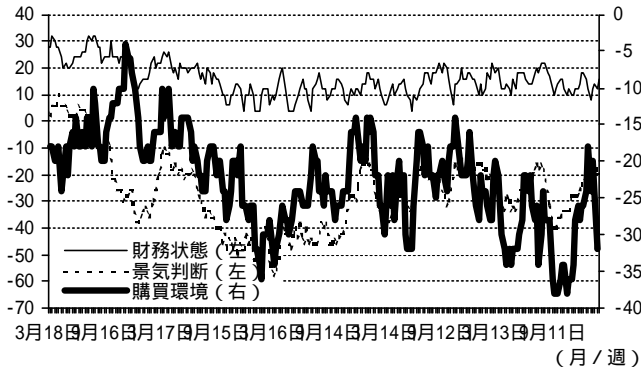
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



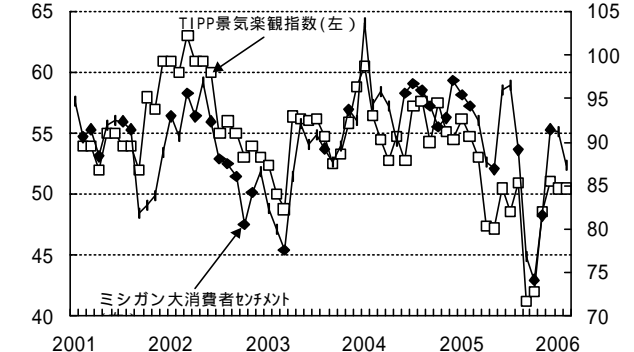
ICSC・UBS小売売上高



A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



消費者マインドの推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。